

県指定重要文化財(工芸品)

銅製御正体

いわき市平大字豊間下之内100 諏訪神社



諏訪神社の銅製御正体

諏訪神社宝前にかけられた御正体で、
鑄銅製、径二二・五センチの鏡板に坐
像の諏訪社本地仏を鑄出し、上部に二
つの環座がある。鏡板には外周と内周
に二条の重圈があつて銘帯を形成し、
上下左右の四か所に三箇の珠文を鑄出
する。中央に、蓮台に結跏趺坐の仏像
がある。像は稚拙で五仏を刻んだので
あるう宝冠をつけ、合掌に宝珠をささ
える四手が表現されている。諏訪社の
本地普賢菩薩を鑄たのであろう。像の
左に花をさした花瓶がある。銘文は裏
面に刻まれ次のように判読される。

奉懸奥州岩城之郡豊間之

取訪大明神御宝前御正躰

大旦那志賀右衛門尉

助力之旦那

遠藤三郎兵衛

塩家

本願大峯大夫新伊守久吉

小大夫 吉廣

大工 重吉

永録九年丙十二月十三日

取は諏、新は紀の誤記であろう。作
者の大工重吉は、重美認定の玉川村須
釜都々古別神社の御正体に見える「天
正十年壬午岩城大寺長山対馬守重吉造之」
今は失なわれたがいわき市、飯野八幡
宮の銅鐘銘「天文廿年癸十二月十六日
鑄工対馬守重蔵」と同一人か父子であ
らう。

本願の大峯大夫というのは、吉野二
峯に参籠した修験の徒と思われる。